様式１：小学校

令和７年度　札幌市　英語教育改善プラン

目標

札幌市の児童が主体的に英語を用いてコミュニケーションを図る資質・能力を育成する。

☑ 言語活動　☐ 指導と評価の一体化（パフォーマンステスト含む）　☐ 教師の英語力・指導力（専科教員含む）　☐ 校種間連携　☑ ALTの参画　☑ ICTの活用（AIを除く）　☑ AIの活用　☐ その他

１．目標に対する現状

改善が進んだ点

①授業における児童の英語による言語活動の実施が、授業の50%以上の学校の割合は、３年連続、90%以上の学校が実施できている。
（R3:90.6%⇒R4:91.4%⇒R5:90.4%）

②ALTの授業への参画において、多くの場面で改善が見られた。
「パフォーマンステスト等の補助」
（小３・４　R4:27.9%⇒R5:39.6%）
（小５・６　R4:72.6%⇒R5:80.7%）
「児童の発言や作文等に対するコメント、フィードバック」
（小３・４　R4:70.6%⇒R5:83.2%）
（小５・６　R4:80.7%⇒R5:90.4%）

未だ改善が必要な点

❶R6全国学力・学習状況調査の質問調査の結果から、児童の英語学習に対する意識について、改善の余地がある。
「英語の勉強は好きですか」
（肯定的な回答　R5:70.4%⇒R6:70.5%）

❷授業におけるICTの活用状況において、「遠隔地の生徒等と英語で話す交流」の場面における活用について、課題が見られた。
（R4:8.6%⇒R5:11.7%）

２．要因分析

①②令和６年度札幌市英語教育改善プランにて、ALTと一緒に行う言語活動、ICTを活用した言語活動の参考資料と動画を作成・周知し、研修等で取組を促進した。

❶児童が、自分の考えや気持ちが英語で相手に伝わって、楽しいと思える授業づくりについて、課題があることが要因として考えられる。

❷以下の５点が要因として考えられる。
・児童が英語で話すことに対して自信がない。
・児童が英語を話すことに必要な知識や技能が不足している。
・英語で自分の考えや気持ちなどを話すこと(伝え合うこと)を試す場面が十分ではない。
・児童が見ず知らずの人と英語で話すことに抵抗を感じている。
・英語担当教師が遠隔地の児童等と交流する機会の創出に苦慮している。

３．目標を達成するための施策・事業

【令和７年度の重点】
ALTの参画と効果的なICTの活用により、児童生徒一人一人が、主体的に英語で伝え合うための学びの充実を図る。

令和６年度札幌市英語教育改善プランにて、参考資料と動画を作成・周知したことにより、改善が見られたことから、令和７年度も以下の視点について、同様の取組を継続する。

❶❷上記の重点において、以下を視点とする。
視点：AIスピーキングアプリ×ALT　※AIスピーキングアプリの導入（８月以降）

❶❷令和７年度の重点を踏まえた「パワーアップ研修」、「令和７年度札幌市英語教育改善プラン報告会（悉皆研修）」を実施する。

「パワーアップ研修」は、小学校英語専科指導教員１年目の先生は悉皆研修とし、学級担任や他校種の教員も参加できるようにする。「ALTと一緒に行う言語活動」、「生成AIとALTを活用した言語活動」を研修テーマとして、ALTの参画と効果的なICTの活用の在り方について学ぶ場とする。

「令和７年度札幌市英語教育改善プラン報告会」では、札幌市英語教育改善プラン会議にて作成した資料や動画を共有し、情報交流等ができる研修の場とする。

・本市の教員採用検査における、一定の英語力を有する小学校教諭受検者に対する優遇措置について、より一層周知を図っていく。

様式１：中学校

令和７年度　札幌市　英語教育改善プラン

目標

札幌市の生徒が主体的に英語を用いてコミュニケーションを図る資質・能力を育成する。

○CEFR A1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合（R6：50.2％⇒R7：55.0％）

☑ 言語活動　☐ 指導と評価の一体化（パフォーマンステスト含む）　☐ 教師の英語力・指導力　☐ 校種間連携　☑ ALTの参画　☑ ICTの活用（AIを除く）　☑ AIの活用　☐ その他

１．目標に対する現状

改善が進んだ点

①授業におけるICTの活用状況において、多くの場面で改善が見られた。
「学習者用デジタル教科書の活用」（R5:75.3%⇒R6:82.5%）
「1人１台端末等を用いた発表や話すことにおけるやり取り」（R5:83.5%⇒R6:89.7%）

②R6全国学力・学習状況調査の質問調査の結果から、自分の考えや気持ちなどを伝え合う授業の実施について、改善が見られた。
「１、２年生のときに受けた授業では、（即興で）自分の考えや気持ちなどを英語で伝え合う活動が実施されていた」（R5:56.7%⇒R6:65.6%）

未だ改善が必要な点

❶CEFR A1レベル相当以上の英語力を取得している生徒及び相当以上の英語力を有する生徒の割合について、改善の余地がある。（R5:48.8%⇒R6:50.2%）

❷授業におけるICTの活用状況において、「遠隔地の生徒等と英語で話す交流」の場面における活用について、課題が見られた。（R5:3.1%⇒R6:5.2%）

２．要因分析

①②令和６年度札幌市英語教育改善プランにて、ALTと一緒に行う言語活動、ICTを活用した言語活動の参考資料と動画を作成・周知し、研修等で取組を促進した。

❶❷以下の５点が要因として考えられる。
・生徒が英語で話すことに対して自信がない。
・生徒が英語を話すことに必要な知識や技能が不足している。
・自分の考えや気持ちなどを英語で伝え合う授業は増加傾向であるものの、英語で話すことを試す場面が十分ではない。
・生徒が見ず知らずの人と英語で話すことに抵抗を感じている。
・英語担当教師が遠隔地の生徒等と交流する機会の創出に苦慮している。

３．目標を達成するための施策・事業

【令和７年度の重点】
ALTの参画と効果的なICTの活用により、児童生徒一人一人が、主体的に英語で伝え合うための学びの充実を図る。

令和６年度札幌市英語教育改善プランにて、参考資料と動画を作成・周知したことにより、改善が見られたことから、令和７年度も以下の視点について、同様の取組を継続する。

❶❷上記の重点において、以下を視点とする。
視点：ALT×オンライン英会話　※オンライン英会話の導入（８月以降）

❶❷令和７年度の重点を踏まえた「パワーアップ研修」、「令和７年度札幌市英語教育改善プラン報告会（悉皆研修）」を実施する。

「パワーアップ研修」は、学級担任や全校種の教員も参加できるようにする。「ALTと一緒に行う言語活動」、「生成AIとALTを活用した言語活動」を研修テーマとして、ALTの参画と効果的なICTの活用の在り方について学ぶ研修とする。

「令和７年度札幌市英語教育改善プラン報告会」では、札幌市英語教育改善プラン会議にて作成した資料や動画を共有し、情報交流等ができる研修の場とする。

❶❷フォローアップ事業として、初任段階１～２年目の中学校外国語科教員を対象とし、希望者に対して、半年間、話すことに特化したAI教材を継続利用してもらい、教師の英語力アップを図る。

様式１：高等学校

令和７年度　札幌市　英語教育改善プラン

目標

札幌市の生徒が主体的に英語を用いてコミュニケーションを図る資質・能力を育成する。

○CEFR A2/B1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合
（R6： A2以上　68.4%、B1以上　15.2% ⇒R7： A2以上　75%、B1以上　25% ）

☑ 言語活動 ☐ 指導と評価の一体化（パフォーマンステスト含む） ☐ 教師の英語力・指導力 ☐ 校種間連携 ☑ ALTの参画 ☑ ICTの活用（AIを除く） ☐ AIの活用 ☐ その他

１．目標に対する現状

改善が進んだ点

①授業におけるICTの活用状況において、多くの場面で改善が見られた。
「発話や発音などの録音・録画」（R5:71.4%⇒R6:100%）
「キーボード入力で書くこと」（R5:85.7%⇒R6:100%）

未だ改善が必要な点

❶授業における生徒の英語による言語活動の実施が50%以上の学校の割合について、課題が見られた。（R5:82.5%⇒R6:50.0%）

❷授業におけるICTの活用状況において、「遠隔地の生徒等と英語で話す交流」の場面における活用について、課題が見られた。（R5:71.4%⇒R6:14.3%）

２．要因分析

①令和６年度札幌市英語教育改善プランにて、ALTと一緒に行う言語活動、ICTを活用した言語活動の参考資料と動画を作成・周知し、研修等で取組を促進した。

❶❷以下の５点が要因として考えられる。
・生徒が英語で話すことに対して自信がない。
・生徒が英語を話すことに必要な知識や技能が不足している。
・英語で自分の考えや気持ちなどを話すこと(伝え合うこと)を試す場面が十分ではない。
・生徒が見ず知らずの人と英語で話すことに抵抗を感じている。
・英語担当教師が遠隔地の生徒等と交流する機会の創出に苦慮している。

３．目標を達成するための施策・事業

【令和７年度の重点】
ALTの参画と効果的なICTの活用により、児童生徒一人一人が、主体的に英語で伝え合うための学びの充実を図る。

令和６年度札幌市英語教育改善プランにて、参考資料と動画を作成・周知したことにより、改善が見られたことから、令和７年度も以下の視点について、同様の取組を継続する。

❶❷上記の重点において、以下を視点とする。
視点：ALT×JET ALTによるオンライン交流

❶❷令和７年度の重点を踏まえた「パワーアップ研修」、「令和７年度札幌市英語教育改善プラン報告会（悉皆研修）」を実施する。

「パワーアップ研修」は、学級担任や全校種の教員も参加できるようにする。「ALTと一緒に行う言語活動」、「生成AIとALTを活用した言語活動」を研修テーマとして、ALTの参画と効果的なICTの活用の在り方について学ぶ研修とする。

「令和７年度札幌市英語教育改善プラン報告会」では、札幌市英語教育改善プラン会議にて作成した資料や動画を共有し、情報交流等ができる研修の場とする。